

**読書** 「ふくちのち」で郷土コーナーを設置  
読書の秋に郷土ゆかりの作家の本を手

図書館・歴史資料館「ふくちのち」で福智町のことをもっと知ってもらおうと「郷土コーナー」を設けました。福智町出身のマンガ家・きゅっきゅぼんさんや自身の経験を綴ったエッセイ作家・原田宏志さん(弁城)などの書籍を紹介。井上憲治館長は「福智出身の2人の活躍をぜひ手に取って見てほしい」と呼びかけています。



↑郷土資料としてきゅっきゅぼん先生のマンガ本が一部借りることが可能に。

↓旧金田中を代表する伝統行事「合唱コンクール」を受け継ぎ行われた音楽集会。



**新** 金田義務教育学校で初の「音楽集会」  
新しい伝統が美しい歌声とともに幕開け

金田義務教育学校で10月16日に全校行事としては初めてとなる「音楽集会」が行われました。前期課程は学年合唱、後期課程は学級合唱で、練習期間が短かった中でも完成度の高い合唱を披露。「最初で最後の音楽集会で最高の思い出を作ろう」と一致団結した9年生は、見事「全クラス金賞」の栄光に輝きました。

↓連携協定を結ぶ日本航空(株)とのつながりで実現した北九州空港での上野焼展は、12月21日(日)まで開催。



**旅** 北九州空港で上野焼を展示  
旅客へ上野焼の魅力を訴える

北九州空港での上野焼の展示会に先立って、上野焼協同組合は、10月1日に空港運営元の北九州エアターミナル(株)へ上野焼を贈呈しました。12窯元が、陶技を凝らして創作した湯呑みとコーヒーカップセットの計23品を寄贈。同組合の高鶴亨一理事長は「北九州空港を利用するお客様の目に留まり、上野焼の産地活性化につながれば」と抱負を語りました。

**コ** 方城中学校PTAがマスクを寄付  
コロナ禍の学校生活に心温まるエールを

方城中PTAが、10月27日に1人あたり10枚のマスクを生徒と教員へ寄贈しました。コロナ禍の中懸命に学校生活を送る生徒たちを応援しようと、12種類のメッセージを添えて計220袋をランダムに配布。PTAの原口将光会長(弁城)は、「親心が少しでも伝わり、子どもたちの励みになれば」と優しい眼差しを向けていました。



↑上段右から原口会長、小田原さん、香月さん、下段右から福富さん、田丸さん、山下さん。

↓唐揚げの味付けや小鉢の準備、サラダの盛り付けなどを担当する岡本さん。



**飲** 地域おこし協力隊に岡本悠悟さんを任命  
飲食業での起業を目指した新生活始まる

10月1日から地域おこし協力隊に岡本悠悟さん(大分県中津市出身)が任命されました。小学1年生から料理に興味を持ち、将来お店を開くことを叶えるため「寿司・和食たちばな」で飲食業の基礎を学び始めた岡本さん「今は覚えることと楽しさで一杯だけどしかりと知識と力を身につけたい」と笑顔で前を向きました。

**田** 公益社団法人「田川法人会」が10万円を寄付  
川法人会が地域貢献で町へ寄付金贈る

田川地区の約1400企業で構成される「田川法人会」が、10月12日に福智町へ10万円を寄付しました。福智支部代表として、(株)野田工務店の野田重美さんが黒土町長へ直接手渡し。同席した田川法人会の樋口隆徳専務理事は、「新型コロナ対策などへ有意義に活用してほしい」と福智町へ期待を込めて使い方を一任しました。



↑田川法人会は、福智町以外にも田川市郡8市町村に一律10万円を寄付。

↓「少ない人数でも担げるように」と神社総代15人が軽量化した神輿を手作り。



**軽** 創意工夫した金田稲荷神社の御神輿  
軽量化御神輿で少人数でのコロナ対策

金田稲荷神社でコロナ対策のための少人数による例大祭・神幸祭が10月20日に行われました。例年の御神輿は若手12人で担ぐ程の重さですが、少人数でも行えるよう特別に軽量化した御神輿を作成。市丸雄一郎神社総代代表は「コロナ終息後は従来通り山笠などで町を盛り上げていきたい」と決意を固めました。